

## 2026 年度 JSCE2025 運営企画会議 WG05 エコシステム（異分野連携） 第 1 回議事録

日時：2026 年 9 月 15 日（火）14：00～15：30

場所：土木学会役員会議室 + Zoom（ハイブリッド開催）

出席者：小澤会長、熊本次期会長（対面）、石原理事、島田理事、長谷川理事（オンライン）

事務局 三輪専務理事、中島

### 配布資料：

資料 1-1 設置趣旨と今後の進め方について

資料 1-2 検討 WG 委員名簿

資料 1-3 JSCE2025 運営企画会議スケジュール

参考資料 1 | 第 6 期国土交通省技術基本計画 パンフレット（2026/3）

[https://www.mlit.go.jp/tec/tec\\_fr\\_000136.html](https://www.mlit.go.jp/tec/tec_fr_000136.html)

参考資料 2 | 学術会議提言 | 研究力の危機と再構築：学術と社会を支える持続的な研究エコシステムの構築に向けて（2025/11）

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf2/kohyo-26-t394-2.pdf>

参考資料 3 | 文部科学省 NanoTerasu（次世代放射光施設）の利活用の在り方に関する有識者会議 第 2 回（2022/9/22） 会議資料「エコシステムとは何か」

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/gijyutu/037/gijiroku/mext\\_01276.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/gijyutu/037/gijiroku/mext_01276.html)

参考資料 4 | NEDO 成果報告会\_特別講演「企業間取引アーキテクチャに関わる IPA の取組」（抜粋）（2024/9/12）

参考資料 5 | 内閣府 スタートアップ・エコシステム拠点形成（2019）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/openinnovation/ecosystem/index.html>

**主な確認事項** 本 WG では、連携すること自体を目的化せず、研究成果や政策提言の社会実装、地域課題の解決など、達成する目標を明確にして取り組むことを確認した。今後は 3 つのモデルケースを具体化し、その検討を通じて土木学会に適したエコシステムの仕組みと展開方法を整理する。

### 1 設置趣旨と体制の確認

#### （1）設置趣旨及び位置づけ

- JSCE2025 において学会の組織運営、予算配分、会員組織、事務局及び関連規程の見直しが課題とされていること、各部門に共通する横断的課題を扱うため、JSCE2025 運営企画会議の下に 5 つの WG を設置したことが説明された。
- 本 WG の主査は小澤会長が務める旨が説明された。

#### （2）WG の役割と検討の視点

- WG05 は本部内の部門・機構、支部、学協会、地域及び外部機関の連携を促進し、活動のサイロ化を解消して新たな価値を生み出すための仕組みと具体的なアクションプランを検討する。

- エコシステムは目的ではなく手段であり、研究成果・政策提言の社会実装や地域課題の解決など、達成する目的を明確にする必要があるとの認識を共有した。

## 主な意見

### (石原理事)

- 学会内の活動を相互に把握できていない。土木学会誌で働き方改革特集が組まれた際、建設マネジメント委員会の成果が特集に反映されなかった例がある。各委員会の活動を把握し、重要課題ごとに人材と知見を結び付けるコーディネート機能が必要である。
- 仕組みやプラットフォームだけを設けても機能しないため、具体的なテーマを定めることが重要である。研究成果や提言を公表して終えるのではなく、政策形成、交渉、発信に長けた人材・組織と連携して社会実装を支える体制を検討すべきである。

### (島田理事)

- 調査研究部門第Ⅷ分野は 2019 年に 4 つの委員会で設置したが、世代交代によって設置時の意図が十分に継承されず、分野横断の活動も限定的となっている。固定的な組織を置くだけでなく、災害や社会課題に応じて関係分野が速やかに集まる柔軟なプロジェクトの仕組みが必要。
- 学会内の各委員会が何を研究しているかを把握・共有する機能が必要である。また、他学会との関係を個人のつながりにとどめず、組織的な連携に発展させること、外部から専門家を探しやすいう専門分野や人材の情報を発信することが重要である。

### (長谷川理事)

- エコシステムは、社会課題に対して制度や技術を組み合わせ、実証・社会実装を行い、その結果から次の課題を見つける循環型の価値創出システムと捉えられる。人口減少、担い手不足、気候変動による災害、インフラ老朽化及び地域格差など、地域ごとに異なる課題を取り上げる必要がある。
- 支部を地域課題の把握と実証の入口とし、本部の知見と結び付ける仕組みが考えられる。

### (熊本次期会長)

- 広くテーマを探すよりも、重要なテーマを絞ってモデルケースをつくり、成功事例を積み重ねる進め方が有効ではないか。
- 学会内外からの相談を適切な委員会や専門家につなぐ窓口又はコーディネーターが必要であるというご意見には賛成だが、どの組織が担うか検討が必要。

### (小澤会長)

- 調査研究成果や会長プロジェクト等の政策提言を実現につなげるには、政策研究、政治学、経済学等の専門家と連携し、政策形成や社会への働きかけを支援する仕組みが考えられる。具体的なテーマで試行し、実効性を確認することが望ましい。

## 外部連携と情報発信に関する意見

- 現在も外部から専門家紹介等の問い合わせを受けているが、委員会へ取り次いだ後の対応結果を把握できていない場合がある。窓口を設ける場合は、相談者の信頼性、受入範囲、案件の追跡などの運用設計が必要である。
- 各委員会の活動や専門家情報を継続的に発信し、学会内外から見つけやすくする必要がある。調査研究部門 29 委員会の委員長へのインタビューの実施と公開が、当該分野の現在の課題や将来像を発信する一案として示された。
- 検索や生成 AI から学会情報を参照しやすくする観点も重要である。効果的な掲載方法は根拠を確認した上で検討し、必要に応じて DX 推進 WG と連携する。

## 2 今後の進め方について

まず 3 つのモデルケースを設定して具体的に検討する。各担当と検討テーマは次のとおり。

| 担当    | モデルケース                   | 次回までの検討内容                                         |
|-------|--------------------------|---------------------------------------------------|
| 石原理事  | 調査研究成果や政策提言を社会実装につなげる仕組み | 具体的なテーマを 1 件設定し、実現に必要な連携先と、政策形成、発信、交渉などの進め方を整理する。 |
| 島田理事  | 調査研究部門第 8 分野の分野横断活動の活性化  | 設置趣旨と停滞要因を整理し、第 8 分野らしいモデルテーマと、必要な連携・運営方法を検討する。   |
| 長谷川理事 | 支部を入口とする地域課題の把握・解決と社会実証  | 関西支部等と連携して焦点を当てる地域課題を選び、本部との連携方法を整理する。            |

- 各担当は、次回までにモデルケースの背景、解決する課題、目的及び到達目標を明確にする。必要な連携主体や手段は現時点の案を示し、具体的な解決策は WG で議論する。
- WG では、3 つのモデルケースを前に進めながら共通する要素を整理し、他の分野や活動にも展開できるエコシステムのモデルと、学会全体で共有する仕組みを検討する。

## 3 その他

- ・次回：2026 年 11 月 2 日（月）10 時 30 分～12 時（C 会議室・zoom）

<https://us06web.zoom.us/j/89397211476?pwd=XWXzQzI5KqS1acv5pKwbqROT2YZEeb.1>

ミーティング ID: 893 9721 1476 パスコード: 026183

- ・第 3 回 JSCE2025 運営企画会議（2026/11/13）に向け、検討状況を報告

以上